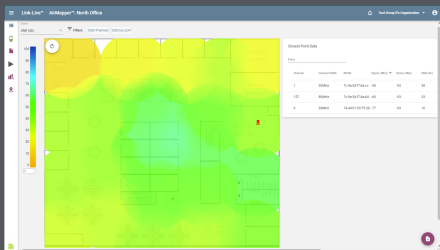




# AirMapper™ App

AirMapper Site Surveyアプリケーションは、屋内外のWi-Fiサーベイを行い、Link-Liveクラウドサービスにアップロードすることができるアプリケーションです。Link-Liveでは、各データ測定地点のヒートマップやWi-Fi測定値を確認することができます。





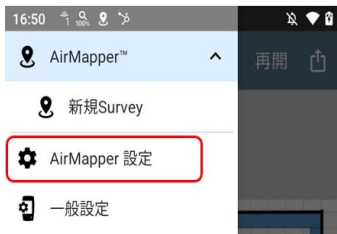
Signalヒートマップは、すべてのLink-Liveユーザーが利用できます。AllyCareサポートのお客様は、Noise, SNR, Max TXおよびRX Ratesのマップもご利用いただけます。

# AirMapperの設定

AirMapperアプリをセットアップしてサーベイを行うには、サーベイ名の設定、フロアプランの読み込み、寸法の指定、スキャンモードの設定、バンドとチャンネルの設定が必要です。

- ・ ファイルタイプは[.png]と[.jpg]のみ対応
- ・ 画像編集アプリケーションを使用して、建物の壁や敷地の境界など、既知の寸法に合わせて図面の画像を切り抜く必要がある場合があります。

AirMapperアプリを開き、メニューアイコン  か設定アイコン  を選択してください。



# AirMapper サーベイの設定



## 名前

「名前」をタップして、AirMapper プロジェクトのカスタム名を入力します。この名前は、このサーベイプロジェクトを識別するために Link-Live にアップロードされます。

## 説明

必要な任意の追加情報を入力してください。

## フロアプラン

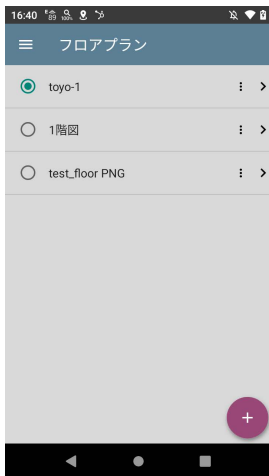
**NOTE:** Link-Liveでフロアプランを設定し、それを AirCheck G3 に送信できます。新しいフロアプランが届くと通知が表示されます:


 AirMapper™

Link-Liveから新規フロアプランを取得  
test\_floor PNG

新しいフロアプランは、既存のフロアプランに追加されますが、自動的に選択されるわけではありません。フロアプランの選択手順は以下となります:

1. 「**フロアプラン**」をタップすると利用可能なフロアプランの一覧が表示されます。



2. フロアプランを選択するか、またはフローティングアクションボタン  をタップして新しいフロアプランを読み込み、ファイル選択画面で新しい地図画像ファイルに移動し、ファイルをタップして選択します。フロアプランメニューが表示されます。



3. 必要に応じて、フロアプランの他のフィールドを入力してください:

≡ フロアプラン	
名前 toyo-1	
インポートされたファイル toyo1f.jpg	
寸法 33 x 28 メータ	>
信号伝搬 6.0 メータ	

**名前:** このフロアプランの名前を入力します。このフィールドのデフォルトは、ファイル名です。

**インポートされたファイル:** ファイルのオリジナルの名前になります。

**寸法:** 寸法をタップすると、フロアプランに2つのマーカーが表示されます。マーカーをフロアプラン上の既知の距離にある2つの場所に移動させます。次に、「**Marker Distance**」をタップして、2点間の距離を入力します。(単位(フィートまたはメートル)は、左上部のナビゲーションドロアから「一般設定」→「長さの単位」で設定します。)

次に、「**Marker Distance**」をタップして、2点間の距離を入力します。(単位(フィートまたはメートル)は、左上部のメニューアイコン  から「**一般設定**」→「**長さの単位**」で設定します。)終了したら、 をタップしてフロアプランメニューに戻ります。

**信号伝搬:** タップすると、信号伝搬予測値の半径の値を入力することができます。

## サーベイ モード

「**サーベイ モード**」をタップして、Wi-Fi環境やサーベイデータの要件に応じたWi-Fiデータ測定方法を選択します:

1. **スキャン後にタップ(パッシブ)**は、各BSSIDから見た最新のAPビーコンに基づき、即座にデータを測定することができます。AP BSSIDは140秒後にエージングアウトし、Wi-Fiクライアントは4分後にエージングアウトします。
2. **タップしてスキャン(パッシブ)**は、スキャンワンス(パッシブ)は、より正確ですが、時間がかかります。ポイントを選択すると、すべてのBSSID情報がクリアされ、ユニットは選択されスキャン時間で、選択されたチャンネルのシングルスキャンを取得します。

これにより、正確な測定が可能になります。しかし、混雑した環境では、スキャン時間中に表示されなかったビーコンはそのサンプルポイントに含まれません。

**3. 接続テスト(アクティブ)**は、Wi-Fi Testポートのリンクされた接続からデータを収集します。

**注:**この方法を選択すると、スキャン時間およびWi-FiバンドとチャンネルのAirMapperの設定が無効になります。

**4. スキャン時間**(パッシブサーベイモードのみ)

「**スキャン時間**」をタップして、プリセットのスキャンタイムを選択するか、カスタム値を入力します。スキャン時間に関する詳細な情報は、一般設定を参照してください。



## バンドとチャネル再設定



(パッシブサーベイモードのみ)「**バンドとチャネル再設定**」をタップすると、**一般設定**で設定した値とは異なるバンドとチャネルを選択できるようになります。(これらの設定は、AirMapper サイトサーベイのみ使用されます。) この設定を有効にすると、Wi-Fi 帯域とチャネルの設定が表示されます。

### Wi-Fi バンドとチャネル

(**バンドとチャネル再設定**を有効にした時のみ表示されます)「**Wi-Fi バンドとチャネル**」をタップすると、周波数帯のリストが表示されます。次に、周波数帯をタップすると、その帯域で使用する特定のチャネルを選択するメニューが表示されます。

<div>≡</div> <div>Wi-Fi バンドとチャンネル</div>
<div>Wi-Fi バンド</div> <div>2.4 GHz, 5 GHz, 6 GHz (UNII-5)</div>
<div>2.4 GHz チャンネル</div> <div>All</div>
<div>5 GHz チャンネル</div> <div>All</div>
<div>6 GHz チャンネル</div> <div>24 チャンネル</div>

**Note:** チャンネルとバンドのサブセットを選択することで、不要なチャンネルのスキャンをサーベイから除外することができます。これにより、サーベイのパフォーマンスが向上し、収集されるデータ量を削減できます。

## サーベイ開始後の設定変更

サーベイを開始した後、**AirMapper 設定**を再度開いて、**フロアプラン** > **寸法**または**信号伝搬値**を変更できます。既存のデータポイントは、別のフロアプランを選択しない限り、マップ上に保持されます。

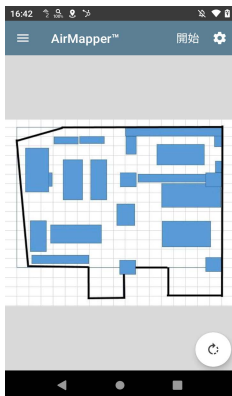
**NOTE:** NetAlly は、サーベイを開始した後にバンド、チャンネル、またはスキャン時間の設定を変更することは推奨していません。複数の設定の調査結果は、混乱を招いたり、信頼性の低い結果になる可能性があります。もし設定変更をする場合は、**バンドとチャンネル再設定**の設定が有効になっていれば、サーベイの開始後に**AirMapper設定**を使用して変更することができます。**バンドとチャンネル再設定**の設定が有効になっていない場合は、**一般設定**を使用して変更を行う必要があります。

## 未知のSSIDとAP

サーベイ中に検出したいサイトの[未知]のAPまたはSSIDについて、NetAllyは、自動テストアプリで適切な認証情報で設定されたWi-Fiプロファイルを作成し、有効にすることを推奨します。そうしないと、AirMapperは未知のデバイスに関連するBSSIDは検出しますが、そのAP/SSIDを特定しない可能性があります。

# AirMapper でのサーベイ

選択した図面がAirMapperのメイン画面に表示されます。



サーベイを始めるには**開始**をタップします。

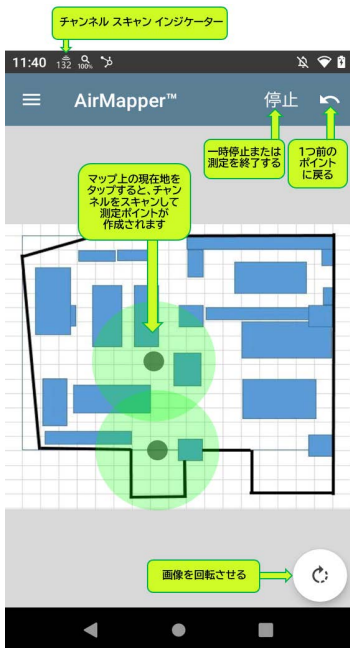
下部のメッセージには、サーベイの種類、無線機、Bluetoothの状態が表示されます。このメッセージは、サーベイを開始したり、再起動したり、他のアプリからサーベイに戻るたびに表示されます。**破棄**をタップすれば表示を閉じることができます。

パッシブ Survey  
Wi-Fi 管理ポート:  
TOYO-WAP01  
Bluetooth: 無効

破棄

データを収集するには、サイト内を移動し、測定したい地点でマップをタップして、その場所の有効なワイヤレスチャンネルをスキャンします。

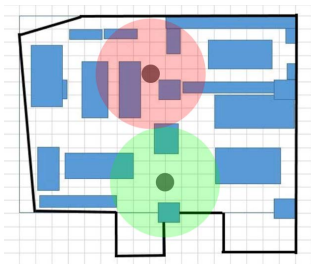
スキャンが完了し、画面上のデータポイントが**赤色**から**緑色**に変わるまで、その場所から移動しないでください。



上の画像のように、前の測定ポイントへ戻したり、必要に応じて画像を回転させたりすることができます。

スワイプやピンチ操作で、マップを拡大・縮小することができます。

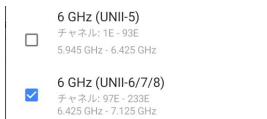
AirCheck G3 がスキャンしている間、信号伝搬の円は**赤色**で表示されます。スキャンが完了すると、円は緑色に変わります。




AirMapper アプリで完了した測定ポイントは常に**緑色**で表示されます。色付きのヒートマップは、AirMapperの結果をLink-Liveにアップロードした時点で生成されます。

**NOTE:** パッシブサーベイでは、以下の状況で信号伝搬の円が**黄色**で表示されることがあります。

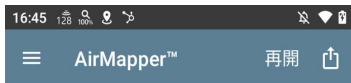
- ・日本国内で使用されていないチャネル  
"6GHz(UNII-6/7/8)"のみを選択している
- ・"6GHz(UNII-5)"のみを選択しサーベイするが、6GHzの信号が存在しない状況



上部のステータスバーの Wi-Fi ステータスアイコン  を見て、AirCheck G3 がスキャンしているチャンネルをリアルタイムで確認できます。

**NOTE:** スキャン時間 (AirCheck G3 がデータを測定する各チャンネルにとどまる時間) を調整するには、左上部のメニューアイコンから「**スキャン時間**」で変更するか、「**一般設定**」>「**Wi-Fi バンドとチャンネル**」>「**スキャン時間**」で変更できます。

測定ポイントの追加が終了、または一時停止する場合は、「**停止**」をタップします。



再開をタップすると、さらに測定を再開することができます。

## アクティブサーベイ

まず自動テストを使用して Wi-Fi プロファイルを実行し、目的の SSID に接続します。「**開始**」をタップしてサーベイを開始します。

SSIDに接続されていない場合、画面下部にメッセージが表示され、サーベイは開始されません。

上記のパッシブサーベイと同様にデータを測定します。

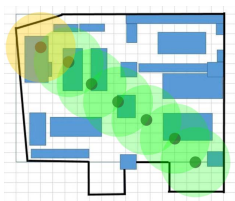


接続が失われると、リンク通知が X に変わり、AirCheck G3 は SSID への再接続を継続的に試行します。

このリンクされていない時間に取得された測定ポイントは**黄色**で表示されます。これらは、その SSID のカバレッジがないエリアを示します。

測定ポイントの追加が終了、または一時停止する場合は、「**停止**」をタップします。

再開をタップすると、さらに測定を再開することができます。



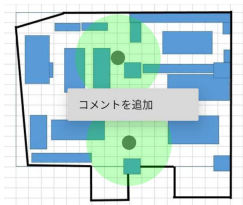
右上部のアイコン  をタップし、「**Link-Live へアップロード**」を選択すると、Link-LiveのAirMapperページにサーベイ結果が送信されます。

## Wi-Fi 管理ポートデータの追加

Wi-Fi 管理ポートがSSIDに接続されている場合、そのアクティブな接続データは、取得した測定ポイントに追加されます。サーベイの種類は関係ありません。この情報はLink-Live上でのみ閲覧可能です。

## コメントの追加

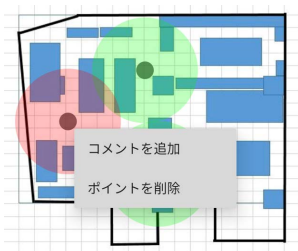
コメントを追加するには、マップ上を長押しします。コンテキストメニューが表示され、「**コメントを追加**」をタップします。ダイアログが表示されたらコメントを入力し、**OK**をタップするとコメントが追加されます。



コメントを編集/削除するには、コメントの上を長押しします。コンテキストメニューが表示されたら、「**コメントを編集**」をタップします。コメントを編集して「**OK**」をタップするか、「**削除**」をタップしてコメントを削除します。2つのコメントが非常に近い場合、タップポイントに最も近いものが選択されます。

## 測定ポイントの削除


測定ポイントの上で長押しすると、その測定ポイントを削除することができます。選択された測定ポイントは赤くなり、コンテキストメニューが表示されます。2つの測定ポイントが重なっている場合は、最も近いポイントが選択されます。「**ポイントを削除**」をタップします。



**NOTE:** 測定ポイントは一度削除すると元に戻すことはできません。

## AirMapper サーベいのLink-Liveへアップロード

アップロードアイコン  をタップして「**Link-Liveへアップロード**」を選択すると、Link-Live共有画面が表示されます。

Link-Live のアップロードアイコン  をタップすると、Link-Live の AirMapper ページにサーベイ結果が送信されます。アップロードダイアログでは、サーベイ名、サーベイ全体のコメント、ジョブコメント(ジョブ全体の状況についてのメモなど)を入力することができます。

**NOTE:** サーベイデータをアップロード（またはローカルに保存）すると、AirCheck G3 はディスカバリ解析ファイルもアップロード/保存して、Link-Live でのデータ解析に役立てることができます。アクティブサーベイデータをアップロードすると、接続ログもアップロードされます。

16:48 61 100%



**Link-Live**

by NetAlly

Survey 名

Survey

コメント

コメントを入力

Job コメント

Test



AIRMAPPERファイルへ保存


Link-Live で AirMapper の結果に添付したいコメントやジョブコメントを入力し、「**AIRMAPPERファイルへ保存**」をタップしてください。

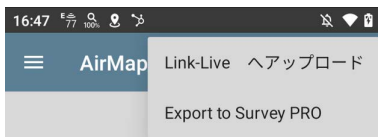
**NOTE:** ジョブコメントは、削除または変更するまで変わりません。

現在のサーベイは、サーベイを削除するまでAirMapperの画面に残り、必要に応じてポイントを追加して再アップロードすることができます。

## AirMapper のサーベイデータを AirMagnet Survey PRO へエクスポート

サーベイデータを .amp ファイルとしてエクスポートし、AirMagnet Survey PRO バージョン 11(2022年11月時点) にインポートして、より高度な解析、プランニング、およびレポートを作成することができます。

サーベイデータの測定が完了したら、アップロードアイコン  をタップし、「Export to Survey PRO」を選択して .amp ファイルを作成します。



下部に表示されるオプションで .amp ファイルの名前を変更し、保存ボタンを選択すると、.amp ファイルが作成されます。



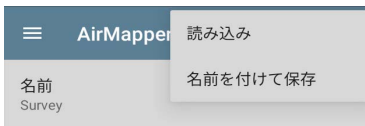
ファイルアプリをから、後でファイルを外部ストレージにコピーすることも可能です。

## AirMapper 設定の読み込みと保存

AirMapper 設定のタイトルバーにあるディスクアイコンを使って、サーベイ設定全体を名前付き設定として保存することができます。



これにより、特定のサーベイ構成を迅速に呼び出すことができます。



# 新規サーベイの開始

AirMapper の新しいサーベイを開始するには、左側のドロワーを開き、「**新規Survey**」を選択します。

